

## 食品分野のリスク概念の特徴

食品分野のリスク概念の特徴について、2つの軸により、他のリスク概念との異同を整理する。第一の整理軸は「リスクが含む、プラス面の扱い」である。第二は「個人的か社会的か」の軸である。

一般的にリスクは、「ある有害な原因(障害)によって損失をとまなう危険な状態が発生するとき、『損失』x『その損失の発生する確率』の総和である」と定義される(e.g., 王、2003、p.128)。概してリスクは「生命の安全や健康、資産や環境に、危険や障害など望ましくない事象を発生させる確率、ないし期待損失」(日本リスク研究学会、2000)と考えられている。

このようにリスクのマイナスの側面を重視しているリスクの概念に対し、経済学では「マイナス面」のみならず、「プラス面」も考慮に入れた概念定義がなされている。いわく、「リスクとは、状態の如何によって、一つの行為から複数個の結果が生まれることを指す。それは人間の生活維持や社会経済に対して、マイナスとプラスの両面の性質を持つ。リスクが大きいとは、複数の結果の間で変動の幅が大きく、また結果の程度が大きいことを意味する」(酒井、2007、pp.59-60)。

食品分野のリスク概念は、前者の、マイナス面を重視したリスク定義である。

第二は National Research Council (1989)による整理軸で「個人的選択」と「社会的論争」による2分化である。後者は、原子力発電、遺伝子組み換え、ナノテクノロジー等の高度な科学技術や環境問題などであり、リスクアセスメントがまだ途上で、どのようなハザードがあるのか、その被害はどの程度なのかなどについて、まだ不明なものも多い。従って、リスク対象の持つ、ベネフィットとコストについてステークホルダー全員が関わって、いわゆるリスクの落としどころ(コストとの関連で、どこまでのリスクなら引き受ける覚悟があるのか)を双方向性のコミュニケーションで話し合う必要がある。

それにたいし、個人的リスクはリスク受容に関わる意思決定が個人的なものが多い。「どうしたら個人がリスクを避けることができるようにできるか」が議論の中心になる。またリスク対象のリスクアセスメントが明確なものもあり、曝露量などについて既に基準があるものもある。

食品分野のリスクは後者に該当する。以上のような食品のリスクを説明された後、それでもそれを安全基準に従って摂取するか、それ以上とるか、とらないかの意思決定は個人のものである。それは丁度 IC(インフォームドコンセント)と類似している。

従ってここで重要になるのは、リスク受容に関する個人の意思決定を支援する仕組みなり知恵である。そのためには、個人が意思決定できるように、リスク対象についての正確で科学的な情報提供を行うことや、確率事象という分かりにくいリスクについて工夫を凝らした説明が必要となる。

(金川委員提出)

